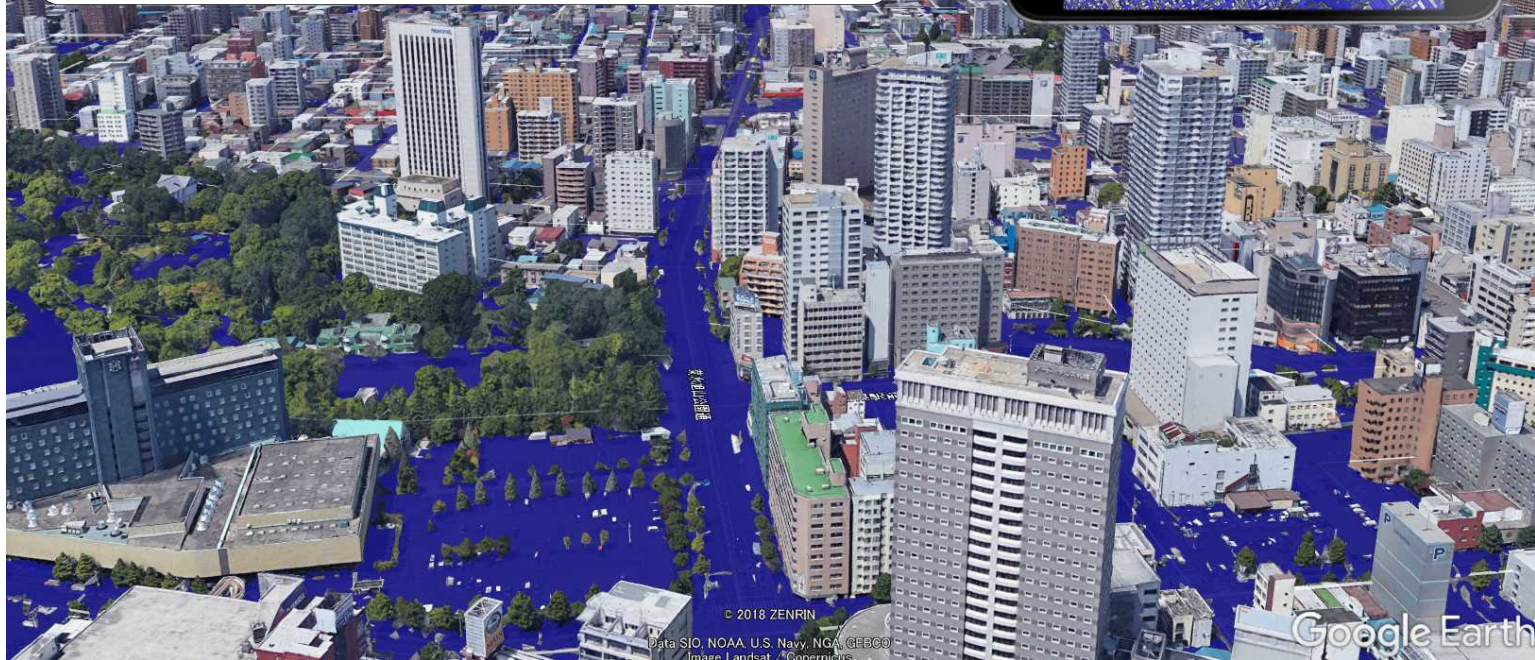


3D浸水ハザードマップ作成技術

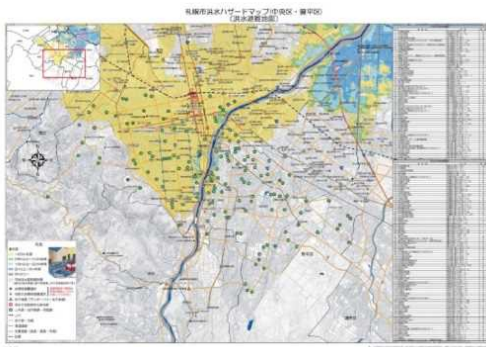
研究背景

- 近年、「想定外」や「経験したことが無い」と呼ばれる水害が増加傾向にあります。しかし、洪水ハザードマップの内容まで理解している住民は多くない状況にあります。
- そこで、浸水深を直観的に把握できるようにするため、Google EarthやGoogle Street Viewを活用した「理解しやすく利用しやすいハザードマップ」を提案します。

スマホ + GPS + Google Earth



■ 従来のハザードマップの課題



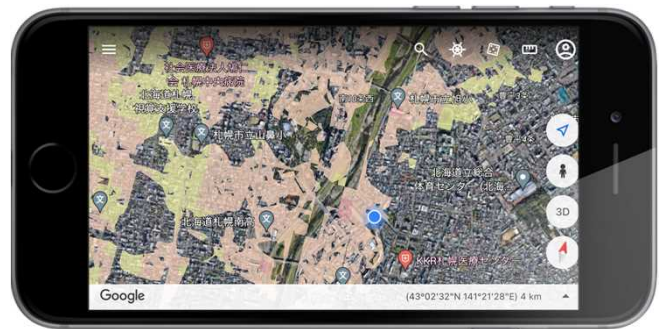
- ✓ 土地勘がないと理解できない。
- ✓ 視覚的に浸水リスクを実感できない。
- ✓ 旅行者、外国人には理解困難。
- ✓ 作成費用がそれなりにかかる。
- ✓ 避難所情報が更新されるたびに、マップを作成し直すことが費用の面から難しい。



表示例 (左図)



■ 3D浸水ハザードマップのメリット



- ✓ 知りたい場所の浸水深を、周辺の建物との比較により、直感的に把握できる!
- ✓ 旅行者、外国人にもわかりやすい! (Google Earthを用いているため、外国語表記も可能)
- ✓ 寒地河川チームHPからダウンロードできるマニュアル・ソフトと、Google Earthを利用すれば「無料」で作成可能!
- ✓ 避難所情報の変更に伴うマップの更新作業が容易で、役場職員の直営対応が可能!
- ✓ 学校や町内会での防災教育にも活用可能!

マニュアル・ソフト

